

明治五年 正月左院洋行真
送別

明治六年 八月熱海温泉
湯治

早稲田大学図書館

文書 27

B 21



明治九年 正月 上杉篤知事 并丸院海官

秋月博臣侯之邸 西園山室及森寺等

子坂成册齋 洋行 高印 植溪 軒

一 松山 正月廿七日 贈

一 松山 廿七日 贈

一 松山 廿七日 贈

一 松山 廿七日 贈

一 松山 廿七日 贈

一 松山 廿七日 贈

一 金田 廿七日 贈 酒肴 并 古幣 切分

一 金子 廿七日 贈 菓子

一 金子 廿七日 贈

一 金子 廿七日 贈 菓子

幸哉社表軒之此村馬車之元車者なり
 格酒のりり舎一葉左と格酒の地獄子
 神の思ひを布一神の思ひを布一此思ひの
 暗夜の成りたる思ひを布一此思ひの
 地と海中と一思ひを布一此思ひの
 度其前が格酒者固本の中
 右段の法平之存育十之格酒の
 善法華と一人也

明治六年八月十七日雨且晴

善見の外家一人を控り新橋停車場に初段
 司志大輔作所の内史等家族を引連勢酒の好
 屋の偶然日行と物と素因なり
 新橋停車場の時神志の引連なり人力車と屋の
 丁の時儀引連なり吉の時者厚引連なり此時
 流河邊引連なり日中七時女南引連なり
 大久保右衛門引連なり今中引連なり馬引連なり
 ありて夜半引連なり海引連なり
 十八日晴

情所尚東山唱爲之極を任の如及海邊
眺望す海し石橋山之古我流と云ふ事由
多布の洞あり江浦林吉嶺海濱の年終
年終の爲る道散心海辺に居る事

新海濱集の巻記

江戸
書八代
三十一歳
大八
七歳
婿
不
也

新橋より神奈川と江東へ上り三人事

金三圓三銭五厘

我点 夫婦 大八 七

神奈川より江原と人力車三輛

金五圓二分二厘

藤原の巻

金二分二厘 藤原代 三十一歳

少田原宿料 四八分

金五十銭 代一分三厘

小田原より熱海と山崎宿三挺

金二十四七銭 代一分

熱海宿士屋法拂 宿料

金十四四一銭五厘

熱海宿上宿料

金十二四三銭

：印原宿

金十四五七銭

二十四七

五十五

五十五

五十五

宿料金

金五圓 五厘

金五十銭 炊俵

金一圓 下宿女

金二十五銭 下

小田原より十挺 車馬代

金一圓一系ワ、四八

平海より

金一圓一系ワ、一〇

新井川より新橋と宿車四人半中草

金二田三子一集

徳田あるあや田一五十二世ニリ

一平協有伊科
二和子川子伊科

以上は各六子中娘と首領は異中体也也賜印

